

じょうけい

発行日 2021年10月1日
 編集 藏ノ下 博之
 発行 真宗大谷派 浄慶寺 大塚展彦
 電話 092-753-6257
 携帯 090-2318-3268
 FAX 092-510-0253



http://www.jyokeiji.jp

境内さんぽ

永代供養墓(倶会一処)にいつも綺麗なお花をお供えしていただいて有難うございます。



＜法語＞
なぜ人間は「正義」と言い傷つけ合うのだろう

鏡如教経

日頃よりお世話になっております。未だ落ち着きを感じることが叶わないコロナ感染症の中、困難な状況を強いられている全ての皆様に衷心よりお見舞い申し上げます。

「本当に心の底から思えるから」 機法一体の南無阿弥陀仏

ころはなし(法華経)とあります。内容をたずねますと、阿弥陀仏は、仏と成る前は、法蔵菩薩という菩薩でした。法蔵は、私達、凡夫に代わって五劫という量ることの出来ない時間をかけて思惟(しゆい)された後、無上の願を建立され、その願が成就して阿弥陀仏に成られました。釈尊(お釈迦様)は、五百塵点劫という、これもまた長大な時間に、八千回まで、様々な形でこの世にお出ましになり、衆生に仏道を説かれました。三千大千世界という、広大な空間(地球の表面全て)において、芥子の実ほどの微細な地であつても釈尊が身を掛けて説法をされてい

ようとしている内容は、「今ここで生きていられるのも先祖様あつてのこと」なのだなぁと感じました。また、「気づけば、お参りする度に、いつも同じことを言っています、本当に心の底から思えるから自然と言葉に出てくるんだなぁと僕はおもいました。」とあります。本章の冒頭に『機(衆生)法(仏)一体の南無阿弥陀仏』という教えの言葉があります。「南無阿弥陀仏」という念仏は、法蔵、釈尊をはじめとして、私達のご先祖様が長い歴史を経て受け継いできたものです。その念仏を今、ここに生きている私達が称える事が出来るのは、ご先祖様方の苦難の歴史、ご苦労を「本当に心の底から思えるから」ではないでしょうか。さらに、念仏が「自然と言葉に出てくる」時は、ご先祖様方の心と私達の心とが通じ、苦しみを分かち合い、悲しみを分かち合う時であり、心と心が一体となる時なのではないでしょうか。

その中に、『弥陀は兆載永劫(ちようさいようこう)のあいだ無善の凡夫にかわりて願行をばげまし、釈尊は五百塵点劫(ごひやくじんでんこう)のむかしより八千遍(はっせんべん)まで世にいでて、かかる不思議の誓願をわれらにいらせんとしたまうを、いままでかざることをはずべし。』とあります。また、『三千大千世界に芥子ばかりも釈尊の身命をすてたまわぬと

とあります。法蔵菩薩、釈尊の物語は、私達に何を問いかけるのでしょうか。今号の『じょうけい』に、ご門徒の鱒坂龍さんが投稿してくださいました。その中に、「今ここで生きていられるのもご先祖様あつてのことだと、常日頃の両親や祖父母の言葉がやると実感できています。」という文章がありました。その文書を繰り返し読ませていただき、法蔵、釈尊の物語が私達に伝え

世の中には、様々な「喜び」があるのでしようが、今、ここに生きる私の心と、ご先祖様方の心が「南無阿弥陀仏」なる念仏によって通じ合う時をいただくほどの喜びは、他にないように思います。 住職

報恩講法要ご案内

- 2021年11月13日(土)～14日(日)
- 全日程13時30分より本堂にて。
- 勤行/法話(当寺住職)

報恩講は、宗祖親鸞聖人のご命日におつとめする真宗門徒にとって最も大切な御仏事です。亡くなられたまきその日に、聖人の御生涯を受け止め、今もなお仏法を説いてくださっている聖人の言葉に出会う仏事です。是非お参りください。

★法要終了後、住職が本堂に残っておりますので、仏事に関するご相談など気兼ねなくお声かけください。

浄土真宗 keyword 「布施」

参照/月刊同朋 2021年1月号

「布施」は、古代インド語の言葉で「ダーナ」と言い、修行者や仏教教団などに施し与えることを意味します。私たちが食べるものや財を僧侶に施し、僧侶は法を施すということが、古来仏教の行(ぎょう)として行われてきました。

布施は、施すものの内容によって、①法施ほうせ(仏さまの教えを説きあたえること)、②財施さいせ(衣食や金銭を施すこと)、③無畏施むいせ(畏(おそ)れのない安らかな心を施すこと)の三つに分かれ、「三施(さんせ)」といひます。そのうち、一般に布施は「財施」のことを差し、仏事をお勤めいただいた際に、お寺・僧侶の方へ差し上げるものを「お布施」と呼んでいます。

仏教ではお布施の行為には、施す人と施しを受ける人と施す物の三つの全てが清らかなことが大切だとされます。①施す人は優越感を持たない・恩着せがましい気持ちを持たない。②受ける人は布施によって卑屈にならない・こだわりの気持ちをもたない。③施す物は自分に不要な物は渡さない・大事なものを施す。これを難しい言葉で三輪清浄(さんりんしょうじょう)と言ひます。

ですから、お布施は、「読経料」などといった、仏事を行っていただいたことへの対価ではありません。どこまでも、仏様の教えに会い得た喜びの心を表現したものであるとして、仏様への感謝の気持ちを表しているものであり、また仏様となられた方に成り代わって私たちがさせていただいている行(ぎょう)です。お供え物も同様に気持ちを形にしたものです。お供え物をいただいたらまずは仏様へ感謝の意を表し、お内仏(お仏壇)にお供えします。その後お下がりをご頂戴します。

【お布施のお供えの仕方】

仏様に対して上向きになるようお供えしたくなりますが、法事のあと、仏様はお布施や供物を私たちに回し向けてくださいます。つまり、仏様から改めて私たちに施して下さるということです。

最終的に受け取り手となるのは私たちなので、お引き下げするときは、仏様に顔向けし合掌して受け取ります。よって、受け取り手となる私たちに対して上向きになるようお供えします。



本尊

次回の法要は...

年明けの「修正会法要(しゅしょうえほうよう)」です。新年を迎えるにあたり、お寺でお勤めをしましょう。日時:2022年1月9日(日) 13時30分より

【法事が困難な方へ】

遠隔地にお住まいの方や、お寺にお越しになるのが困難な方は、ご連絡ください。お寺にて住職がご法事をいたします。

※今後はリモートでのご法事もできるように環境を整えていく予定です。

お盆を終えて...

今年のお盆は例年の大暑とうってかわって、大雨に見まわられました。お参りは少ないかもしれないと思いましたが、皆さん、天気予報を上手に活用され、雨の晴れ間に来られたり、大雨の中でも傘を差してお参りに来られたりして、そのようなお姿を拝見し、頭が下がるおもいで一杯でした。

また、もしかしたらお盆の合同法要は、どなたもいらっしやらないのではないかと内心、心配しておりました。しかし、3日間もたくさんのお参りをさせていただき、皆様とともに法要をお勤め出来たことを、誠に有難いことであると感謝するばかりです。

お墓参りの方には、階段が上がったところに大きな水たまりが出来ており、ご不便をおかけしましたこと、お詫び申し上げます。納骨堂の方々も縁側が濡れていることもあったかと思ひます。

しかしながら、どなた様もいつもご丁寧にお参りしていただき、また仏法を繋いでいただいておりますこと、心より感謝申し上げます。 坊守

法名について

がたい法名を本人が知らぬまま亡くなってゆくのは、大

Q. 法名は亡くなった後の名前ではないのですか？
A. 教名を聞いて、いきいきと生きていくことを誓う仏弟子(ぶつでし)としての名前です。生きていく時にこそいただく名前です。お葬式の時におかみそりをされる

Q. 法名ははじめに「釈」「尼」の意味は？
A. 法名は、必ず「釈(尼)〇〇」という形になります。これは、お釈迦さまを先生として、その一字をいただいているということです。女性の場合は釈のあとに「尼」の字が入りますが、「尼」はもともとnikuni(ビクシュニー「比丘尼」つまり「出家の女性の仏弟子」を示す言葉の一部です。

★法名(帰敬式)については今後も掲載します。

※受式者お一人様につき冥加金(お礼金)二万円をいただきます。

※その他、費用がかかる場合もあります。

帰敬式は真宗門徒の出発式

～新たな人生のスタートラインに立つ～

伝統的に「おかみそり」という名称で親しんできた儀式は、正しくは「帰敬式(きぎょうしき)」といわれています。私たちは、通常亡くなってからおかみそりを受けて法名をいただければいいと思ってきましたが、本来帰敬式はお釈迦さまの弟子になる、仏弟子(ぶつでし)になるという式です。ですから亡くなってから受式して法名を受けるのではなく、生きて今だからこそ人間としての生き方、在り方を問い、学んでいこうという出発の式が帰敬式です。

Q. 生前に法名をいただく、不幸なことが起こると聞いたことが…。
A. 法名を亡くなった人の名前と考えるからそういう迷信が起るのです。お釈迦さまは、亡くなった人に向かつて説法をしたことはありません。私たちが生きている間に、本当に幸せで安らかであってほしいという、お釈迦さまの慈悲のおこころが私たちにかけられています。法名をいただくことも、ただかなくとも、人間は老・病・死を避けることはできません。だからこそ生きているうちに老・病・死の苦しみを乗り越える本当の道に出遇いたいものです。

Q. 院号とは、お寺の護持に特に貢献してくださった方への賞典として授与されるもので、法名とは別物です。現在の制度では、本山へ10万円以上の懇志を納められた方に対して院号が授与されます。あくまでも賞典ですから生前にいただくこともできます。

Q. 帰敬式を受けるごつなると、何がかわる？
A. 帰敬式を受けるのは人生で1回です。法名・戒名をたくさんもらえばその分功德があるなどということはありません。いただいた法名とそこにかかれた願いを大切にしながら、教名を聞く人生を歩みましょう。

門徒さん投稿欄

清掃奉仕とお朝事

今回、大塚展彦住職より執筆依頼を受けました、鱒坂 龍(あじさかりゆう)です。現在、西南学院小学校6年生、12歳です。ぼくは毎月、両親と浄慶寺にお参りに来ています。駐車



自然と言葉に出でくるんだなあとぼくは思いました。本堂にお参りし、それから先祖様にお参りへ。ぼくはいつも、



8月22日(日)朝6時より、両親と祖母と一緒に浄慶寺の清掃奉仕に参りました。大塚展彦住職と大塚麗坊守にご指導いただきながら、ぼくと父は、本堂入口の床や障子の棧の隅などの埃がたまりやすいく所を拭きあげました。母と祖母は本堂の畳の掃除機と強めに絞ったタオルで畳を水拭きした後、乾いたタオルで水分を拭き取る掃除をしていました。ぼくは汗をびっしょり



かきながら、一心不乱に掃除をしました。なかなかお寺の掃除は出来ないの、とても貴重な体験ができてとても嬉しかったです。浄慶寺がさらに綺麗になり、ぼくもとても清々しい気持ちになりました。

その後、大塚展彦住職と大塚麗坊守と一緒に、朝のお勤めをさせてもらいました。また、お経のあげ方も丁寧に教えてくださいました。浄慶寺にお参りに来る度に、いつも温かい気持ちになれます。



いつも見守ってもらっていることを実感できる場所、ぼくにとって大切な場所です。これ



鱒坂さんご家族みんなで清掃とお朝事。

からも変わらず、浄慶寺にお参りに行きたいと思えます。

川柳 山口由利子

核心に 効かず秘伝の柚子胡椒

住み慣れた 暮しの匂い路地の風

名を呼ばれ ハイと八十路の背を伸ばす

煩惱は 無限放してまた掴む